

道徳教育の理論と指導法

科目ナンバリング ESS-102
教職 選択 2単位

佐藤 高樹

1. 授業の概要(ねらい)

本授業は、教職課程に位置づく科目の一つです(「道徳の理論及び指導法」)。授業のねらいは以下の通りです。

(1)道徳の意義や根本原理についての探究に加え、学校教育における道徳教育の位置づけや「特別の教科 道徳」(道徳科)の目標・内容等について理解を深める。

(2)教材研究や「特別の教科 道徳」の学習指導案作成、およびその検討・相互批評を通して、道徳指導に必要な実践的指導力を身につける。

「道徳の教科化」によって、「道徳」の学校教育上の比重は大きく変化しました。全国の中学校では2019年度から「特別の教科 道徳」がはじまりました。教育実習で道徳の授業を経験する学生も年々増えてきています。この授業を通し、道徳教育の実践とそれを支える理論について、さまざまな実践例・教材を切り口としながら学んでいきます。

2. 授業の到達目標

(1)道徳の理論:道徳の意義や原理等をふまえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。

①道徳の本質(道徳とは何か)について、教育思想・哲学や歴史の知識を活用しながら説明できる。

②現代における子どもの発達や道徳に関わる課題(いじめ、情報モラル等)について、社会的背景を含めて構造的に理解している。

(2)道徳の指導法:学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育およびその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

①学校における道徳教育の位置づけについて理解している。

②道徳における教材研究の意義を理解し、その成果をふまえて授業を設計している。

③授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。

3. 成績評価の方法および基準

授業参加度＝リアクション・ペーパーの提出(40%)、課題レポート＝学習指導案の作成(30%)、および筆記試験の成績(30%)に基づき、総合的に判断します。

4. 教科書・参考文献

教科書

文部科学省 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説